

都城島津灯ろうまつりについて

- 都城島津灯ろうまつりと都城島津家の歴史

薩摩藩領に残る夏の風物詩『六月灯』と『都城島津の歴史』を合わせた二つの地域資源のコラボにより、地域の持つ宝の素晴らしさを再認識して貰いたいという思いから、都城島津家とも所縁のある7月28日の旭丘神社の夏まつりにあわせて27日、28日の両日開催しています。

※参考：第1回令和元年。令和2年と3年はコロナ禍により中止。

- 島津発祥の地 都城について

1185年に惟宗忠久（これむねただひさ）が、現在の宮崎県都城市祝吉町を中心とする日本最大級の荘園である島津の荘の地頭となり、名を地名から島津忠久（しまづただひさ）と改めた。これが、島津家の始まりといわれています。

1352年に島津家第4代6男の島津資忠（すけただ）が合戦の功績により、今の都城市山田町の北郷（ほんごう）という地を足利尊氏（あしかがたかうじ）から拝領し、名を北郷資忠（ほんごうすけただ）と名乗った。これが、都城島津家のはじまりとされています。

その後、幕末まで都城を治めることとなるが、江戸時代に島津姓に復したため都城島津家ともいわれています。その都城島津家の明治期以降の館を活用して整備された施設が現在の「都城島津邸」になります。

- 灯ろうまつりの規模、数について、関連する展示物について

特大灯ろう2基・大灯ろう30基に加え、地域の小学生の子ども灯ろう約100基のほか、都城島津家紋提灯などを展示しています。灯ろうは時系列に展示してあるので、下から順番に観覧すると島津発祥の地都城と都城島津家の歴史を体感できます。

※関連するお祭り：7月28日 旭丘神社 夏まつり／11月23日 島津発祥まつり など

- 灯ろうまつりの見どころ、おすすめ

1. 島津及び都城島津の歴史のターニングポイント

『丹後局と狐火の図』（島津家の誕生⇒惟宗忠久の誕生）

『北郷資忠薩摩迫入部の図』（島津資忠の北郷入部⇒都城島津家の誕生）

2. 都城島津灯ろうまつりのウエルカムゲート

『兼喜神社の阿吽の龍』

3. 都城島津家伝承、都城島津邸保管

『高麗虎狩図屏風』